

とよなか ゆめ・まち・ひと

リレーエッセー



豊中での半世紀

豊中市に住み始めてから、半世紀(50年)が経つ。父親の職場が北摂になり、高校3年の夏休みに大阪の南から引越して来た。万博(1970年)の前である。堺市の高校まで、毎日通つ

た。そのころは往復で3時間半くらいかかった。

当時は「千里ニュータウン」が開発されているところで、新しく快適な街であった。その後、「万博」が始まり、一挙に便利になった。万博により世界各国から多くの人々が集まり、北摂は世界の中心さながらの様相であった。それ以来、私は2、3年の海外生活以外はずっと、豊中に住んでいる。大学も職場も豊中。出張以外、豊中市を出ることはほとんどない。買い物や会食、スポーツ、娯楽等、大阪

市内まで出なくても豊中市の中で大体のことは用が足りる。出張は新幹線か大阪国際空港から航空機であるが、豊中市はいずれも便利である。北海道でも九州でも2時間以内に行くことができる。豊中は日本の中心ともいえる。引越してきたころは、千里(豊中)は「外国みたいだね」と言われていた。今では豊中は安全で便利で、外国が豊中のようになるのを望んでいるようだ。

最も思い出深いのは、やはり、万博後の千里中央あたりの開発

はら だ あきら
原田 明

[大阪大学栄誉教授、高分子合成研究者]

豊中市在住。昭和52年(1977)大阪大学大学院理学研究科博士課程修了、同大学教授・特別教授を歴任。平成29年(2017)から現職。平成4年、構造を柔軟に変化させる超分子「ポリロタキサン」の合成に世界で初めて成功した。平成10年度高分子学会賞、平成23年度日本化学会賞などを受賞、平成18年紫綬褒章受章。



風物詩

とよなか



カンヒザクラ


(ヒカンザクラ)

【バラ科／サクラ属／落葉小高木】

早春の寒い頃、鮮やかな^{ひいろ}緋色の花をつけることから「^{かんひざくら}寒緋桜」。沖縄でサクラといえばこの花をいい、日本で一番早く開花するサクラとして知られます。原産地は台湾や中国南部。日本のサクラとは一風変わった、釣り鐘型の花の豊富な蜜を求め、虫や小さな鳥がこの木にやって来ます。

花の見頃は3月。

豊島公園(曾根南町)、三ツ池西側(東豊中町)などで見られます。



であろう。デパートやスーパー、セルシーなどができた。地下鉄(北大阪急行)が千里中央に乗り入れ、ターミナル駅として多くの人々が出入りすることとなった。東西の交通としては、建設には時間がかかったが、モノレールが開通したのは私にとっては大変ありがたかった。町はその後さらに北(箕面方面)に広がり、近いうちには北大阪急

行も千里中央駅からさらに北に伸びる予定らしい。南にばかり向いていた目が、北にも目が向くようになってきた。最近ではタワーマンションなど、次々と建設され、人口はますます増えているようだ。

海外出張などから帰国して豊中に帰ってくるとホッとす。これからもずっと住んでいた、と思う。

【奇数月は「リレーエッセー」、偶数月は「豊中っ子を掲載します」】

市内で思い出に残っている場所は？

万博後、新たに地下にできた千里中央駅。吹き抜けで上の階にプランターが並ぶなど、当時としては斬新でした。